

東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2011年12月23

悔悟と懺悔

親愛なるムスリムの皆様

悔悟とは、しもべが罪や過ちを放棄し、ドゥアと懇願によってアッラーから許しを求め、アッラーに戻り、またアッラーがしもべに対し許しによって応えられることです。罪はアッラーと私たちとの間の愛情の結びつきを弱めます。アッラーの恵みや慈悲を覆うものとなります。精神的な人格を破壊し、内面世界を暗いものとしします。この観点から悔悟は、アッラーとの愛情の結びつきを新たにし、罪によって傷つけられた内面世界を修復することです。

崇高なるアッラーがしもべに悔悟する機会を与えられたことはその無限の慈悲のあらわれです。なぜならしもべの犯した罪のために彼らを即座に罰せられず、許しを請う機会を与えられ、慈悲の扉をあらゆる瞬間において開かれているからです。崇高なるアッラーの美名の一つが「タツワブ・何度も許されるお方」です。アッラーは悔悟の扉をいつでも開かれています。しもべが許しを求めて訴えてくるのに対し彼らに慈悲と許しで応えられます。彼らがその罪のために真摯な悔悟を行うことを喜ばれるのです。崇高なる書クルアーンは多くの節で私たちを悔悟へと招き、悔悟するものが許され天国に入れられるということをアッラーは次のように語られています。「あなたがた信仰する者よ、謙虚に悔悟してアッラーに帰れ。恐らく主は、あなたがたの様々な悪を払い、川が下を流れる楽園に入らせるであろう。その日アッラーは、預言者やかれに従って信じる者たちを、辱しめはしない。かれらの光は、その前方または右方に閃こう。かれらは（祈って）言うであろう。『主よ、わたし

たちのために、光を完全になされ、わたしたちを御赦し下さい。あなたは凡てのことに全能であります。』」

預言者ムハンマドもまた、罪を犯したもののうち最良であるのは悔悟するものであることを語っ



ておられます。そして崇高なるアッラーがしもべを許されるために常に慈悲と許しの扉を開けておられるということはあるハディースで次のように言及されています。「神神聖なるアッラーは昼間罪を犯したものの悔悟を受け入れるために夜間、夜罪を犯したものの悔悟を受け入れるために日中、しもべの悔悟を待っておられる。この状態は最後の審判の日まで続く。」また預言者ムハンマドはご自身も日に少なくとも百回は悔悟と懺悔を行われていること、私たちも悔悟を行うべきであることを

を次のように指摘されています。「人々よ！アッラーに悔悟と懺悔を行いなさい。私は日に百回は悔悟している。」

悔悟することにはいくつかの条件が伴います。それは、まず一瞬でも早く罪を放棄すること、犯した罪について後悔すること、二度と罪を犯さないことを強く決心すること、犯した罪が他のしもべの権利を侵害するものであればそれを本人と解消することです。なぜなら崇高なるアッラーはしもべの権利に非常に重きを置かれるからです。

機会を逃すことなく罪を放棄し、悔悟を行いましょう。誠実な行い、よい振る舞いを続けましょう。私たちがいたることのできた神聖な日々、夜が一つのチャンスであることを認識しましょう。なぜなら崇高なるアッラーは心から行われる悔悟を受け入れられ、それを喜ばれ、罪を善行と変えられるからです。実際アッラーは次のように仰せられています。「アッラーが悔悟を御赦しなされるのは、知らずに悪事を犯したが、直ぐ後で、悔い改める者だけである。アッラーは、これらの者を御赦しになられる。アッラーは全知にして英明な御方であられる。」（婦人章第17節）